

11 / 11 校長室より No.123

「書物の新しいページを1ページ、1ページ読むごとに、
私はより豊かに、より強く、より高くなっていく。」

アントン・チェーホフ（ロシアの劇作家、小説家／1860－1904）

4日(金)から17日(木)までの2週間は、本校の読書週間です。今日は6時間目に「たっぷり読書」ということで、50分間じっくり好きな本を読む時間を設定しました。

先生方にも読書を勧めていて、定期的に読んでいる本を紹介し合っているということは以前お伝えしました。ちなみに10・11月は以下の通りです。

本の題名	著者名・作者名	出版社	備考
13歳からの地政学 カイゾクとの地球儀航海	田中 孝幸	東洋経済新報社	最近目にする機会が多い「地政学」。書籍も多く発刊されています。私も興味を持ち、入門的なものをもって手に取ったのがこの本です。中学生にもピッタリ。読みやすくわかりやすい1冊です。
「ブレない自分」をつくるコツ	桑原 晃弥	PHP 研究所	アドラー心理学に基づいた本になります。ぜひ一読を！
鎌倉殿と13人の合議制	本郷 和人	河出新書	13人の合議制とはいったい何か。関東武士の秩序と地理、武士政権の始まり。
世界の「頭のいい人」が やっていることを 1冊にまとめてみた	中野 信子	アスコム	私は頭がおかしいので、この本を読んで頭を良くしようと手に取りました。頭のいい人はただの天才ではなく、脳を活用して最大限自分を引き出すことの上手な人といくことなんだ～と参考になる本です。
情報を正しく選択するための 認知バイアス事典	高橋昌一郎	フォレスト出版	偏った見方をしないように。
アルケミスト	パウロ・コエーリョ	角川	若かりし頃読んだ本を読み返してみました。人生のヒントが見つかるビルドゥングスroman。
俺ではない炎上	浅倉 秋成	双葉社	数時間でSNS上殺人犯になってしまった普通のサラリーマン。最後に「誰か俺にインターネットを教えてくれ！」で締めくくられていたのが印象的でした。
瓢箪から人生	夏井いつき	小学館	「フレバト」の俳句コーナーでおなじみの夏井先生のエッセー集です番組に出演することになったいきさつや忘れられない人たちとの出会いなどを、俳句やユーモアを交えながら味わい深い文章で綴っています。あなたも「いつき組」に入りたくなるかも…。
Invert 城塚翡翠倒叙集	相沢 沙呼	講談社	「medium」のラストが「そうきたか?!」と思うものだったので、続編を読んでいます。
夢をかなえるゾウ 3	水野 敬也	飛鳥新社	1,2と読んだので、3,4と読んでいきたいと思います。
君がクラスを変える	大西 忠治	民衆社	以前の本ですが、生徒と一緒にクラスのことを考えました。
掬えば手には	瀬尾まい子	講談社	今回も岩瀬先生からお借りしました。岩瀬先生、いつもありがとうございます！

次はどう動く？ バスケットボール脳を鍛える プレー問題集	安齋 竜三 小谷 究	辰巳出版	イラストがあり、問題形式でわかりやすいです。
芸術起業論	村上 隆	幻冬舎文庫	世界で活躍するアーティスト村上隆(ゆずの夏色の CD ジャケットをデザインした人)の著作。美術に限らず物事に対する考え方、取り組み方がすごく参考になります。
ぼくらの戦争なんだ	高橋源一郎	朝日新聞出版	「戦場なんか知らなくても、ぼくたちは本当の『戦争』に触れられる。そう思ってこの本を書いた」の表紙に惹かれて読んでいる最中です。
その本は	又吉 直樹 ヨシタケシンスケ	ポプラ社	好きな絵本作家と好きな芸人の本で、短編集のようなもので、おもしろいです。
ポアンカレ予想	ドナル・オシア	新潮社	宇宙の形を予想し、それを証明するのに100年もかかった。宇宙の形は、みなさん、どんな形だと思いますか。なぜそうなるか考えて読んでみてください。
スタンフォードの ストレスをカに変える教科書	カーリー・マクゴニカル	大和書房	「ストレスは全て悪いものばかりではなく、エネルギーの源」であること、興味深く手に取りました。

「家読(うちどく)」について学校だよりの第6号で取り上げましたが、灯火親しむ季節、ぜひ各ご家庭でも読書に勤しんだり、本を話題に語り合ったりしていただければと思います。

《読書に関する名言・格言》

- ・良い本は私の人生におけるイベントである。

スタンダール(フランスの小説家/1783-1842)

- ・読書ほど安い娯楽も、長続きする喜びもない。

メアリー・ウォートリー・モンタギュー(イギリスの著述家/1689-1762)

- ・読書は私たちに未知の友人をもたらす。

オノレ・ド・バルザック(フランスの小説家/1799-1850)

- ・読書は、自分の頭ではなく他人の頭で考えるのと同じである。

アルトゥル・ショーペンハウアー(ドイツの哲学者/1788-1860)

- ・心にとっての読書は、身体にとっての運動と同じである。

リチャード・スティール(アイルランドの作家/1672-1729)

- ・あらゆる良書を読むことは、過去数世紀の最高の人々と会話するようなものだ。

デカルト(フランスの哲学者/1596-1650)

- ・読むのを学ぶことは火を付けることである。綴られた全ての音節が火花である。

ヴィクトル・ユーゴー(フランスの詩人/1802-1885)